

立て、一心に唱えたお経。と、不思議や、すつと空に舞う観音像の手にした白弓から、鬼婆の胸を目がけて放たれた金色の矢、どうと倒れて息絶えるお婆——。

祐慶は、その仏像に白弓観音と命名。これが今に残る観世寺観音像です。いわては里人の手で葬られ、黒塚と刻まれた石碑も建立され、訪れる観光客が後を絶ちません。

